

## 「紙コップが堆肥に！」ガンバ大阪、三菱ケミカルが行う実証実験に参画。循環型システムの実証実験開始～スタジアムで応援しながら、資源循環にも貢献しよう！～

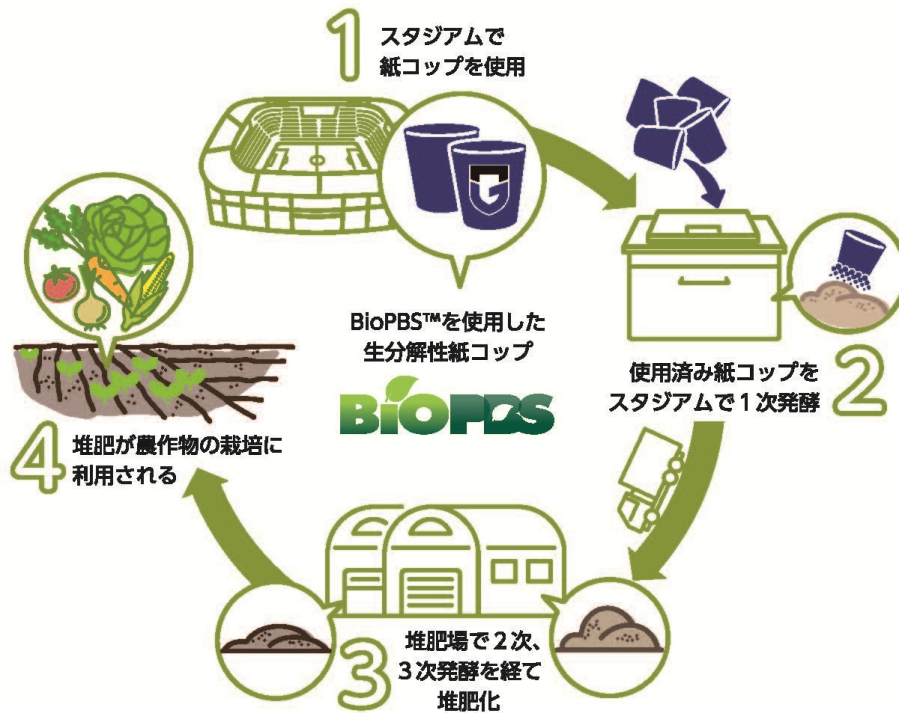
東洋アルミエコープロダクツ株式会社（本社：大阪市西区、社長：山口正起、以下「当社」）は三菱ケミカル株式会社の生分解性樹脂BioPBS™を内面に使用した紙コップを製作いたしました。



東洋アルミエコープロダクツ株式会社は、三菱ケミカル株式会社及び日本マタイ株式会社、株式会社シンギ、株式会社マルタカ、その他参画企業と連携し、生分解性樹脂BioPBS™を内面に使用した紙コップを製作しました。製作した紙コップを起点とするコンポストによる循環型システム実現に向けた実証試験を行うことのお知らせいたします。

今般の実証試験では、ガンバ大阪が実施する2022年のJ1リーグのホームゲームの際に、会場（パナソニックスタジアム吹田）内で販売されるドリンク用として、生分解性樹脂「BioPBS™」を内面に使用した当社製作（中国子会社の蘇州東洋アルミエコー日用品製造有限公司製作）の紙コップ10万個を活用頂くものです。

使用済み紙コップは、スタジアムに設置された食品残渣発酵分解装置で食品残渣物などと一緒に1次発酵を行います。1次発酵物は、堆肥場にて2次、3次発酵を行ったのち、野菜の栽培に利用できる堆肥に生まれ変わります。2022年のシーズンを通して、このような紙コップを起点とした循環型システムの実証実験を行います。



この取り組みは、大阪府が2019年1月に行った「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」および同宣言に基づき2021年8月に設置され、吹田市も参画している「おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム」における、プラスチックの資源循環を推進する活動の一環として実施されます。

当社は、生活シーンのあらゆる分野で徹底した生活者指向のもと、もっと便利に、もっとおしゃれに、もっとおいしく、もっと健康に、もっと快適に、もっと環境にやさしくありたいという願いを解決し、より豊かなアメニティーライフを演出する事で社会に貢献してまいります。

※本件における参画企業（順不同）

三菱ケミカル株式会社、日本マタイ株式会社、株式会社シンギ、株式会社マルタカ、旭洋株式会社、株式会社日本HP

【ご参考】

BioPBS™は、三菱ケミカル株式会社が開発、植物由来の生分解性樹脂で、自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解されるため、自然環境への負荷が少ない樹脂素材です。また、他の生分解性樹脂に比べ、低温ヒートシール性・耐熱性・柔軟性などで優れた性能を有しています。通常、紙コップの内側には耐水性のためにポリエチレン（非生分解性樹脂）でラミネート加工が施されています。そのラミネート材料にBioPBS™を用いることで、紙コップ全体がコンポスト設備や土壌で分解可能になります。



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000074.000039029.html>

東洋アルミエコープロダクツのプレスリリース一覧

[https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company\\_id/39029](https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/39029)

---

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

東洋アルミエコープロダクツ株式会社

電話 : 06-6110-1301